

「天から下ったパン(1)」

§ 076 ヨハ6:22~35

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①湖の東側で5,000千人のパンの奇跡が起こった。
- ②弟子たちは、舟に乗って湖の西側に向かった。
- ③イエスは、祈るために山に上られた。
- ④向かい風のために、弟子たちは湖上で格闘していた。
- ⑤イエスは水の上を歩き、舟に近づかれた。
- ⑥ペテロの水上歩行の出来事があった。
- ⑦イエスが舟に入ると、舟はすぐに目的地に着いた。

(2) この箇所は、5000人のパンの奇跡が起こった日の翌日のことである。

- ①イエスは、カペナウムの会堂で群衆を教えた。
- ②ヨハネの福音書にはイエスの説教が7つ出てくる。その3番目のもの。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

「人々が期待するメシア像に答えないイエスと、ガリラヤ伝道の崩壊」 (§ 76)

ヨハ6:22~71

2. アウトライン(対比)

- (1) 肉的動機と霊的動機(22~29節)
- (2) 古いマナと新しいマナ(30~35節)
- (3) 信じない者と父から招かれた者(36~40節)
- (4) つぶやきと信頼(41~59節)
- (5) 棄教と忍耐(60~71節)

今回は、(1)と(2)を取り上げる。

3. 結論: イエスの7つの自己宣言

イエスの3番目の説教を通して、イエスとは誰かを確認する。

I. 肉的動機と霊的動機(22~29節)

1. 22~24節

「その翌日、湖の向こう岸にいた群衆は、そこには小舟が一隻あっただけで、ほかにはな

かったこと、また、その舟にイエスは弟子たちといっしょに乗られないで、弟子たちだけが行ったということに気づいた。しかし、主が感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来た。群衆は、イエスがそこにおられず、弟子たちもいないことを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに来た」

- (1) イエスが与えるパンを食べた人々は、イエスに注目した。
 - ①舟が一隻しかなく、弟子たちだけがその舟で西岸に向かうのを見ていた。
 - ②イエスが山に上るのを見た。
 - ③イエスはまだ付近にいたと思っていたが、そうではないことに気づいた。

- (2) そこで、イエスを捜すために西側に移動した。
 - ①ちょうど、テベリヤから数隻の小舟が入って来た。
 - ②それに乗って、カペナウムに移動した。
 - ③彼らは、イエスを熱心に探した。もっと多くのパンをもらおうとした。

2. 25 節

「そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。『先生。いつここにおいでになりましたか』」

- (1) イエスがなぜカペナウムにいるのか、不思議であった。
 - ①いつ、どのようにして、カペナウムに移動したのか、知りたかった。

- (2) イエスは、その質問には答えない。
 - ①水上歩行は、弟子訓練のための私的「しるし」であった。
 - ②群衆は、イエスを強引に王に祭り上げようとしていた。
 - ③このままでは、イエスの主張は群衆の熱狂的な動きの中に埋没してしまう。
 - ④そこでイエスは、明確に真理を教える。非常にストレートな教えである。
 - ⑤この教えは、カペナウムの会堂で語られたものである。

3. 26～27 節

「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです』」

- (1) 「まことに、まことに、あなたがたに告げます」

- ①「アーメン、アーメン」という言葉が2回、文章の最初に出てくる。
- ②この説教の中では、この表現は4回も使われている。

*6:26、32、47、53

(2) イエスは、人々が肉的動機で動いていることを指摘した。

- ①彼らは、「しるし」の意味を考えることをしなかった。

*イエスはメシアであり、創造主である。

- ②単にパンを食べて満腹したので、もっとパンをもらうためにイエスを捜した。

- ③彼らが求めていたのは、パンと政治的解放を与えてくれる預言者モーセである。

(3) 「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい」

- ①労働を否定しているのではない。それが人生のゴールになってはいけない。

- ②これは、比喩的言葉である。

*朽ちる食物と永遠のいのちに至る食物の対比がある。

*それは、肉的動機と霊的動機の対比でもある。

- ③永遠のいのちに至る食物とは、霊的食物、神のことばである。

- ④人の子(メシアである自分)が与えるのは、後者である。

- ⑤人の子は、父なる神の認証を受けて活動している。

*シールやラベルの役割

4. 28節

「すると彼らはイエスに言った。『私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか』」

(1) 「働き」というキーワードを中心に議論が回る。

- ①ユダヤ教は、義なる業を強調した。

- ②ユダヤ人の習性は、「業による救い」を求めることである。

- ③ここで人々は、何をしたら神に喜ばれるかと問うている。

- ④自分には、神を喜ばせる業ができるとの思い込みがある。

- ⑤「業による救い」は、人間には心地よいものである。

(2) ロマ10:2~4

「私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。キリストが律法を終わらせられた

ので、信じる人はみな義と認められるのです」

5. 29節

「イエスは答えて言われた。『あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです』」

(1) イエスは、たったひとつの神のわざを指摘した。

- ①それは、「神が遣わした者を信じること」である。
- ②自分の無力を知り、それを認めること。
- ③そして、イエスを救い主として信じること。
- ④ここで教えられているのは、信仰による救いである。

(2) ロマ6:23

「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです」

- ①罪という主人に仕えるなら、報酬として死が与えられる。
- ②永遠のいのちは、神からの賜物(プレゼント)である。

*主キリスト・イエスを信じることで、その贈り物を受け取ることである。

II. 古いマナと新しいマナ(30~41節)

1. 30~31節

「そこで彼らはイエスに言った。『それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。「彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた」と書いてあるとおりです』」

(1) 人々の邪悪な心が見える。

- ①イエスは数々の「しるし」を行われた。
- ②5000人のパンの奇跡を行われた。
- ③その翌日、人々は何もなかったかのように、さらに「しるし」を求めた。
- ④自分たちの要求を満たすために、イエスを操ろうとしている。
- ⑤見たら信じてやるという提案であるが、これは逆である。
- ⑥信じる→見えるようになる。見る→信じる、ではない。

(2) 人々は、詩78:24~25を引用した。

「食べ物としてマナを、彼らの上に降らせ、天の穀物を彼らに与えられた。それで人々

は御使いのパンを食べた。神は飽きるほど食物を送られた」

(3) 人々は、イエスよりもモーセの方が偉大だと考えた。

①モーセは、40年間、イスラエル民族を養った。

*イエスは5000人をたった一度養っただけだ。

②モーセは、天からのパンを与えた(マナ)。

*イエスはすでに地上に存在しているパンを増やしただけだ。

2. 32～33節

「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです』」

(1) ユダヤ人の3つの誤解を解く。

①マナを与えたのはモーセではなく、「わたしの父」である。

*「わたしの父」とは、イエスの神性宣言である。

②父は今も、パンを与えておられる。

③父が今与えるパンは、「天からのまことのパン」である。

*旧いマナは、肉体を養うためであり、一時的なものである。

*新しいマナは、魂を養い、永遠のいのちを与える真の食物である。

(2) イエスの自己啓示

①天から下って来た「神のパン」とは、イエスのことである。

②イエスはモーセよりも偉大である。

③イエスは荒野のマナよりも偉大である。

④旧いマナは、イスラエル民族の肉体的生存を可能にした。

⑤新しいマナは、全人類に永遠のいのちを与えるものである。

3. 34～35節

「そこで彼らはイエスに言った。『主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。』イエスは言われた。『わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません』」

(1) 霊的に盲目な人々

①彼らは、イエスが「神のパン」であることを理解しなかった。

②それで、「いつも、ただで食べられるパンが欲しい」と願ったのだ。

③サマリヤの女と似ている。

「先生。私が渴くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい」(ヨハ4:15)

④彼らには、真の信仰はない。

(2)「わたしがいのちのパンです」

①これは、イエスの神性宣言である。

②もし人がこの言葉を発したなら、その人は愚か者である。

*私たちは、自分の飢えや渴きを癒すことはできない。

*ましてや、全人類の飢えや渴きを癒すことなどできない。

結論：イエスの7つの自己宣言

1. ヨハ6:35

「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません」

2. 8:12

「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」

3. 10:7、9

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です」

「わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます」

4. 10:11

「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます」

5. 11:25

「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」

6. 14:6

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」

7. 15:5

「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです」